

田染荘 繁栄する古代の風景

豊後高田市にある石造文化財は、思うほど年月の経過に耐えるものではありません。市の中心部から運転していくと近い距離に、田染の荘園という風光明媚な谷間があります。古代地図からも確認できますが、過去千年紀にわたり景観の変化はほとんどありません。写真うつりのよいパノラマの谷間の斜面ゆっくり下ると、周辺の山の急傾斜に守られて、不規則で丸みを帯びた水田が、土地に沿った自然な輪郭を形成しています。この地区は、かつて宇佐神宮の封建的な所有物件であり、ここでは収穫した米を神様に捧げていました。

自然と持続可能性

地元の農業方法に独自の特徴が複数存在することで、この半島は世界農業遺産として指定を受けました。水を貯めておくために開発された貯水池のネットワークも含まれます。谷間に囲まれている檜の木は、充実した媒体かつ降雨時の自然のフィルターとして長らくその役目を果たしています。さらには椎茸栽培に適した場所です。椎茸栽培は土地に栄養を与えてくれます。（森の木陰を歩くとすぐに丸太の存在に気がきます。この丸太を使用し椎茸は成長します。）数百年にわたり開発された自然の方式は、持続可能な農業システムを維持できるよう現在も使用されています。

菩薩の視線に続く

稲作農業の美とレイアウトのおかげで、訪問者は別の視点から見える景色を求めて、谷間周辺を歩いてみたいと思っています。谷の最西端には、雨引社に向かう鳥居があります。春になると下にあるすべての水田が灌漑されます。楽しみはとっておいてください。谷間の東側の狭い道を登っていくと、2体の見張りにたどり着きます。この見張りは、素晴らしい景色と全生態系の監視を行っています。この2体は観音菩薩像の名をとって命名されました。観音菩薩は、岩壁の表面から彫られたもので、くぼみから谷間を見守っています。東側では朝日（日の出）観音が、西側では夕日（日の入り）観音が安置されています。観音様は、哀れみ深い菩薩として知られています。自身の悟りを後回しにして他者を助け

ます。この美しい地域が存続しているのは、神様が優しい視線を投げかけているからと考えるのは想像に難くありません。